議案第９５号　流山市白みりんミュージアムの設置及び管理に関する条例の制定について、**反対の立場**から討論を行います。

我が党は、白みりんミュージアムについて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のさなかに計画されたことや、ライフサイクルコストを度返しした市長の姿勢も含め、当初から不要不急の事業であり、「無駄な箱モノ行政の象徴」と指摘し、中止を求めてきました。

今議会の委員会質疑では、その実態がいよいよ明らかになりました。

まず事業費は、木造平屋でありながら破格と言える建設費４億４千万円。坪単価 228 万円は、本市の消防本部新庁舎、鉄筋コンクリート・免振構造４階建ての坪単価 224 万円よりも高くなるという異常さをもっています。しかしそれだけにとどまらず、設計や外構工事を含めれば総事業費は７億円。これは、直近建設された平屋施設「おおたかの森児童センター」の各種備品も含めた総事業費１億 6500 万円の 4.2 倍にも膨れ上がっています。

国の交付金や企業版ふるさと納税と財源確保は熱心に説明しても、本市で何が何でも、今すぐやるべき事業という科学的根拠も、市民や地元の切実さも何一つ示すことはできていません。

さらに維持管理費は、年間５千万円と見込み額が初めて示されました。それに対し、年間２万人の来客数を見込み、年間収入は 600 万円程度とのことです。つまり、見込みだけでも年間 4400 万円の赤字となり、15 年後、20 年後に実施される施設大規模改修も見据えれば、施設があり続ける限り、毎年赤字を垂れ流すことになります。これは、将来的な人口減少時代が来るという市長の論理からいっても全く整合性が合いません。小学生の社会科見学等に位置付けたとしても、その子どもらに大きなツケを残し続けることになります。

市長は自らの肝いりの事業には大盤振る舞いの一方で、市民及び市職員には、この 20 年、コストカット相次いで求めてきました。直近では、高度な専門性の高い実績を残し、市民から評価も得ている公立幼稚園の廃止案の押し付けをはじめ、コロナ禍や物価・エネルギー高騰があっても、本市の経済対策は、市民一人当たりの比較で松戸市の２分の１、柏市の６分の１程度しかなく、病院給食の食材に対する支援を求める国の通知も無視です。

あまりにバランス感覚と、政策の優先順位を大きく欠いた事業であると重ねて指揮し、議案９５号に反対の討論とします。